

3 道徳の時間に生かす指導方法の工夫

⑥板書を生かす工夫

指導のポイント

- 板書は、児童にとって思考を深める重要な手がかりとなります。
- 教師の伝えたい内容を示したり、その順序や構造を示したり、内容の補足や補強をしたりするなど多様な機能をもっています。

具体的事例

一般的な板書

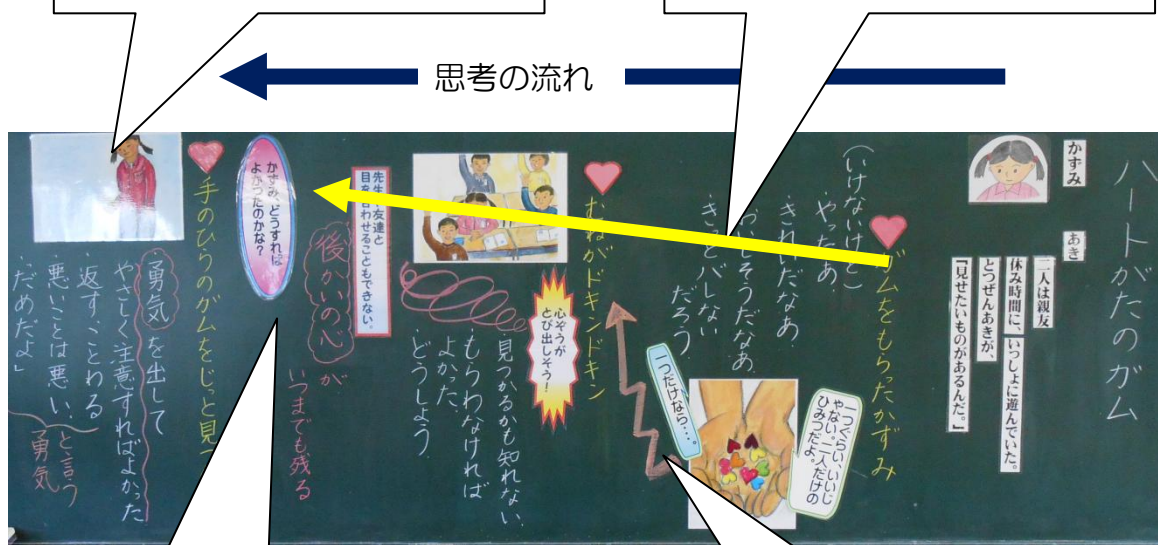
思考の流れや順序を示します。

資料名「ハートがたのガム」の例

出典「彩の国の道徳〈中学年〉」(埼玉県教育委員会)

場面絵を利用して、みんなで話し合う順番が、目で見得分かるようにします。

場面絵やハートの位置によって主人公の気持ちの変化を表すこともできます。



キーワードなども書いておくと、児童の思考を深める手助けとなります。

思考の流れの手助けとなるように、矢印や色チョークを、工夫して使います。



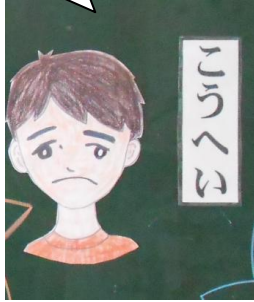
Point

- 場面絵を黒板に提示する場合、横並びにするだけでなく、心情が沈んでいる場面や葛藤場面などは下に、道徳的価値の自覚をする場面などを上に貼るなどするのも効果的です。また、場面絵の台紙の形や色を変える等の工夫すると、視覚的に心情変化を捉えやすくなります。

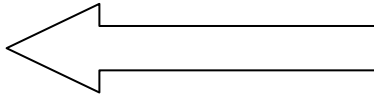
劇の舞台のように利用する工夫

資料名「二つのアサガオ」の例 出典「彩の国の道徳〈低学年〉」(埼玉県教育委員会)

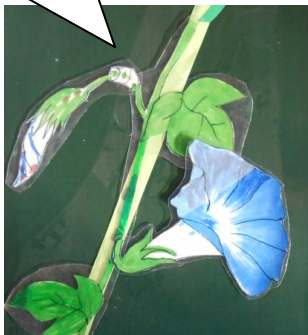
つぼみをおっけてしまい困っている主人公



きれいなアサガオを見てうれしそうな主人公



取れたつぼみをセロハンテープで貼る様子



つぼみの取れた様子



Point

○ 話合いの流れに沿って黒板に掲示していくことで、場面の状況等がとらえやすくなります。

対比的に示す工夫

資料名「かなちゃんへの手紙」の例 出典「彩の国の道徳〈中学年〉」（埼玉県教育委員会）

友だちな
のに……

・2つの気持ちの
対比を際立たせ
る。
・色チョークなど
を活用し、視覚
的にも分かる工
夫をする。

友だちなのに…

大きらい

留意点

- ねらいにかかわって、指導の意図や資料の内容の整理、児童の感じ方や考え方を視覚的に整理して生かすために、学習指導過程との関連をもたせて計画を立てておきます。
- 児童と共につくっていくような創造的な板書となるよう心掛けることも大切です。
- 場面絵などは、学校（学年）で保管して、教師同士で共有できるよう工夫しましょう。
- 「彩の国の道徳」の場面絵は、埼玉県HPから印刷して使用することができます。